中国で300万店が消えた 止まらない倒産ドミノ

「仕事が見つからなくて、今は深セン市龍華区のホテル街まで来ている。ここ、今なんと1泊約500円（20元）のベッドがあるんだ。以前はここって高級ホテルの代名詞みたいな場所だった。最低でも約2300円（100元）からが普通だったのに、今は何が起きているのかわからない。ホテルがどんどん潰れているんだろうな。今泊まっているのは地元の人たちばかりだ。もしみんなも仕事が見つからず困ったら、とりあえずここで一時的に暮らすことはできるよ」

「中新グループ莱陽田業が倒産！勤続1年で補償はたった約6900円（300元）！こんなの理不尽すぎる！」

中国の消費市場では低迷が続き、今、多くの業界でかつてない「倒産ラッシュ」が広がっています。

飲食、小売、教育、観光、不動産など、多くの企業が閉店や営業停止に追い込まれ、一般の人々も景気悪化を肌で感じ始めています。中国当局は依然として「景気は回復している」と強調していますが、現実には消費の落ち込みと企業倒産が止まらず、市場全体の冷え込みを隠しきれていません。

中国国家統計局が5月18日に発表したデータによると、今年4月の中国の社会消費財小売総額の伸び率はわずか0.2%でした。市場予想を大きく下回っただけでなく、ここ数年でも最低レベルの伸び率となっています。

さらに中国人民銀行のデータでは、4月の個人向け融資は約18兆円（7869億元）減少し、過去最低を記録しました。

消費ローンも住宅ローンも同時に縮小しており、人々がますますお金を使わなくなり、借金すら避けるようになっている実態が浮き彫りになっています。これまで中国経済を支える重要な原動力とされてきた「消費」は、今、明らかに失速しています。その影響を真っ先に受けたのが飲食業界です。


倒産後の商店街(中国SNS)

データによると、2025年には全国で300万店舗以上の飲食店が閉店しました。多くの店は開業からわずか1年ほどで潰れていきます。かつて賑わっていた商店街には、今では「店舗譲渡」「営業停止」の張り紙が目立つようになりました。上海の有名レストラン「順風大酒店（じゅんぷうだいしゅてん）」、上海料理の老舗「上海老飯店（シャンハイろうはんてん）」、さらに「楊記隆府（ようきりゅうふ）」などのチェーン店でも大量閉店が発生しています。かつて200店舗以上を展開していたミルクティーブランド「吃茶三千（チチャサンチェン）」は、現在営業中なのはわずか2店舗だけです。老舗チェーン「CoCo都可（ココトカ）」も、半年で400店舗以上を閉鎖しました。かつて中国全土で大人気だったインスタント火鍋ブランド「自嗨鍋（ジハイグオ）」は、最近になって破産清算を申請しました。一時代を築いた高級アイスブランド「鍾薛高（ジョンシュエガオ）」も、債務超過で破産手続き入りとなりました。

顧客を奪い合うため、飲食業界では値下げ競争が激化しています。現在、中国の外食の平均客単価は10年前の水準まで落ち込みました。多くの店は赤字でも、とにかく安売りで客を呼び込むしかない状況です。

飲食業だけではありません。小売業界でも大規模な閉店ラッシュが起きています。2025年には60以上の小売チェーンブランドが相次いで店舗閉鎖を実施しました。

スーパーマーケット、化粧品、アパレル、高級ブランドまで幅広い分野に影響が広がっています。

かつて若者に人気だったアジア圏で展開する大手ドラッグストア「万寧（マンニン）」や、香港を拠点とする大手化粧品チェーン「莎莎（ササ）」は、中国市場から次々と撤退しました。ワトソンズも一線都市の店舗を次々閉鎖しています。日本や韓国系の化粧品ブランドも、多くが売り場撤退を進めています。

大型スーパーも厳しい状況です。湖北省のスーパー大手「中百倉儲（ちゅうひゃくそうちょ）」は以上を閉鎖しました。「永輝超市（ヨンフイ・スーパーマーケット）」は5年連続赤字となり、大量閉店に追い込まれています。

高級ブランド市場も急速に冷え込んでいます。Gucci、Armani、Lanvinなどの国際ブランドも、中国の店舗を次々閉鎖しています。かつて「おしゃれ」や「中産階級の象徴」とされたアパレルブランドでも、大量撤退が相次いでいます。

教育・研修業界の状況も深刻です。子ども向けプログラミングやダンス教室から、フィットネス、ヨガ、留学エージェントに至るまで、多くの教育関連ブランドが倒産に追い込まれています。かつて中国で1000店舗以上を展開していたバスケットボール教室「東方啓明星（とうほうけいめいせい）」は、現在わずか十数店舗しか残っていません。有名フィットネスチェーン「威爾仕健身（ウイルズ・フィットネス）」も、最後の店舗が正式閉店しました。

ペット業界も深刻な打撃を受けています。複数のペットチェーン店が短期間で資金難に陥り、大規模閉店を実施しています。中には設立から1年も経たず、全店舗閉鎖となったブランドもあります。

医療サービス業界でも経営破綻が相次いでいます。産後ケアセンターや歯科医院が突然営業停止し、利用者が事前に支払った料金を取り戻せないケースが続出し、各地で抗議活動も起きています。

さらに、中国の薬局業界でも異例の閉店ラッシュが発生しています。2025年には全国の薬局数が純減で2万店以上減少し、中小薬局の淘汰が急速に進んでいます。

一見活況に見える観光業界にも、実は危機が広がっています。2026年以降、少なくとも7社の大型観光・リゾート企業が破産清算や法的再建手続きに入りました。地方国有企業、大型観光施設、高級リゾート開発まで含まれています。かつて数千億円規模を投じ、「スター事業」と宣伝された観光地やホテルも、今では経営危機に陥っています。

中国の自動車市場も急速に冷え込んでいます。データによると、2026年4月のガソリン車販売は前年同期比で37%も急落しました。EVを含む新エネルギー車の販売も下落が始まっています。乗用車市場全体では、すでに7か月連続で販売減少が続いています。特に厳しいのが自動車ディーラーです。大量の正規ディーラーが赤字に陥り、車を売れば売るほど損をする状況に追い込まれています。価格競争は激化していますが、それでも消費者は車を買おうとしません。

中国の消費を最も押し下げている根本原因とされるのが、不動産不況です。ここ数年、中国の不動産市場は下落が続いています。住宅価格は約3年連続で下がり続け、不動産企業の資金繰り悪化、リストラ、工事停止、倒産が急増しています。データによると、2025年上半期だけで、不動産企業の破産再建・清算案件は全国で1500件を超え、前年比約25%増となりました。不動産不況は、人々の「資産感覚」を直撃しています。これまで多くの中国家庭は、不動産価格の上昇によって安心感を得てきました。しかし、今は住宅価格が下落し、多くの人が資産縮小を実感しています。その結果、消費意欲も大きく低下しています。

さらに就職難も深刻化し、収入減、リストラ、賃下げが広がる中、節約志向が急速に強まっています。かつて人で溢れていた繁華街は客足が減り、空き店舗が急増しています。起業家たちは次々撤退し、中産階級の消費も明らかに縮小しています。

専門家の中には、中国の消費市場の問題は、もはや単なる「消費低迷」ではなく、不動産不況、雇用不安、所得減少、企業信頼の低下など、複数の問題が同時に噴き出している状態だと指摘する声もあります。街の小さな店から大型チェーン、高級商業施設、不動産、自動車産業まで、中国の多くの業界が今、深い縮小局面に入っています。そして消費マインドが回復しない限り、この全国規模の倒産ラッシュは、まだ終わりが見えない状況です。

（翻訳・藍彧）

ホームレス2410万人の衝撃 中国の街頭で次々と倒れる若者たち

中国経済の低迷が続く中、街頭で倒れる出稼ぎ労働者の姿が、この数年、各地で繰り返し伝えられています。

2026年5月、湖北省武漢市の街頭で撮影された動画がネット上で注目を集めました。白い服を着た男性が路傍の草地に横たわっており、両手にわずかな動きはあるものの、起き上がる体力はもはや残されていない状態でした。声をかけた市民によって、すでに数日間何も食べていないことが分かりました。

時計の針を少し戻します。2025年12月30日、ネット上で拡散された動画には、黒い服を着た男性が上海のある公園の木の下でうつ伏せに倒れている様子が映っていました。傍らの草地には布団が敷かれ、スーツケースや衣類の入った大きな袋が置かれており、公園で寝泊まりしていた出稼ぎ労働者と見られます。警察と救急隊員が現場に到着しましたが、応急処置を施すことはなく、男性の所持品を調べている様子でした。

中国東北部でも、同じ様な出来事が伝えられています。遼寧省瀋陽市のある路上で、倒れていた黒い服の男性に数名の女性が呼びかけ、目を覚まさせ、枕の代わりにリュックを頭の下に置いて、水や飴を与えていました。警察が市民の通報を受けて状況を尋ねると、女性たちは、彼は四川省から瀋陽に仕事を探しに来た若者で、職が見つからず、二日間何も食べていなかったため、空腹のあまり気を失ったのだろう。と説明しました。救急隊員が診察した結果、命に別状はないと判断され、その場を後にしましたが、周囲にいた市民たちは彼にお金や食べ物を手渡し、サポートしたといいます。

南方でも同様の出来事が報じられています。2024年7月21日、福建省漳州市のある店舗の前で、台風の中、痩せ細った男性が、数時間にわたって座り込んでいました。事情を尋ねた女性店主は、彼が広州から仕事を探しに来たものの、四日経っても職が見つからず、所持金も使い果たしてしまったことを知りました。店主がおよそ2000円(100元)と傘を手渡したところ、男性はようやくリュックを背負って立ち去ったということです。

江蘇省蘇州市の昆山では、より深刻な状況が集中的に伝えられています。昆山はかつて非常に繁栄した製造業の拠点でした。しかし、近年は衰退が進み、多くの工場が倒産あるいは人員削減に追い込まれています。出稼ぎに来た若者の多くは、仕事が見つからず収入も得られず、故郷の家族に合わせる顔もないため、この地に長く留まっています。中華園と呼ばれる地区には、職を見つけられない若者が大勢集まっており、家賃を払えず野宿せざるを得ない人も少なくないとされています。

2024年8月13日の夜、中華園内で撮影された動画には次のような光景が映っていました。上半身裸の若い男性が両腕で膝を抱え、壁の隅にうずくまり、まったく動きません。全身は骨と皮だけになり、両足はすでに黒ずんで腫れ上がっていました。傍らに荷物はなく、白いビニール袋が一つあるだけです。隣には手帳を持った医療従事者が立ち、もう一人がしゃがんで救急箱を閉じ、立ち去ろうとしていました。少し離れた場所には、青い布で覆われた担架が置かれていたといいます。動画だけでは死亡を断定できないと考えるネットユーザーもいれば、負傷と飢餓が重なった結果ではないかと推測する人もいました。

中華園で類似の出来事が伝えられたのは、これが初めてではありません。同年6月にも、中華園西村19号棟2号入口で男性が餓死したとネットユーザーが情報を寄せ、動画には骨と皮だけになって丸まっている若い男性を、当局者が担架で運び出す様子が映っていたとされます。拡散後、昆山の官製メディアは直ちに「デマである」と反論しました。さらにさかのぼれば、2023年4月にも、男性が昆山の街路樹の緑地帯で空腹のあまり気を失ったという動画が流出しています。当時、地元のネットユーザーがコメント欄に「蘇州ではすでに何人も餓死していて、発見された時にはもう異臭がしていた」と書き込んでいました。

Xでは、多くのユーザーがこれらの動画にコメントを寄せています。「食料が溢れているこの時代に餓死する人がいるなんて、一体どういう社会なのか」「これから餓死する人はますます増えていくだろう」「人を食い物にする社会だ」といった声のほか、「中共の強大さなど、寄生する怪物が宿主から血を吸う時に見せる幻想にすぎない」と書き込む人もいました。

近年、中国経済の下降に伴い、本土の工場や企業が次々と倒産あるいは人員整理を行い、大学卒業生を含む多くの出稼ぎ労働者が職を見つけられず、大都市の街頭をさまよっています。以前、中共体制内の学者による調査結果がネット上で出回り、本土のホームレス数は1000万人を超えるとされていました。しかし、記事はすぐに削除され、真偽は不明のままです。最近もまた、中共内部の統計とされるデータによれば、ホームレスの数はわずか数年で2410万人にまで急増し、その大半が若者だとされていますが、このデータも検証する手立てはありません。

2023年から2026年まで、南から北まで、よく似た出来事が異なる都市で断続的に伝えられてきました。カメラに収められていない場所で、記録されないまま消えていった出来事がどれほどあるのか、確かなことは誰にも分かりません。

（翻訳・吉原木子）

入国管理局長承認申請取次行政書士 大西勝一 第11B3-153号
入管申請
TEL:078-681-5763 090-8190-5528(SB) FAX:078-681-5768

帰化、永住、資格変更全般
不必一個人煩惱
有10年豐富經驗
成功率高的大西
全力支持您！
本報讀者有優惠
掌握不被拒签的诀窍，制作「理由书」有自信。
大西行政書士事務所 080-3789-1196(SB) 中文
神戸市兵庫区上庄通2-4-29
神戸地下鉄：和田岬2号出口 徒歩1分
Mail:officeoo24@yahoo.co.jp
大西勝一

歡迎訂閱《看中國》
半月一刊：280日元（1份） 半年訂閱：2980日元（12份）
全年訂閱：5800日元（24份） 兩年訂閱：10800日元（48份）
半月份一刊，週二發行
ゆうちょ銀行：
店番：018 普通：2589417
名義：カンチュウコ゛クカフ゛シキカイシャ
電話：06-6809-2939 傳真：06-6809-2939
錯過了這期的《看中國》報紙？
請登錄閱讀電子版：
e-paper.kanzhongguo.com